

「学校だより」

新沢っこ

2021年 6月号

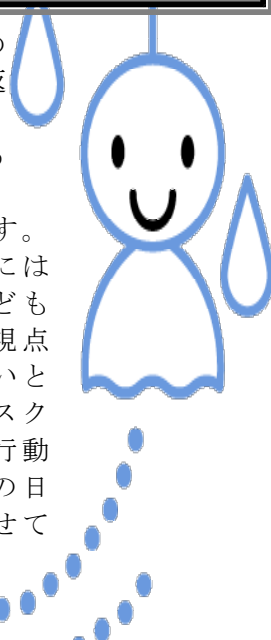
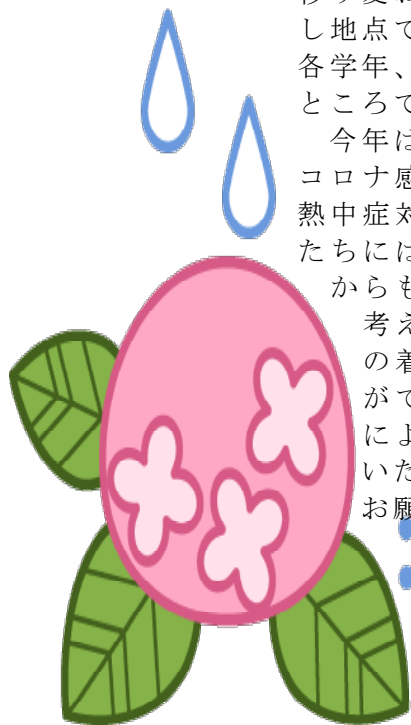
檀原市立新沢小学校

電話 27-4163

(ホームページにはカラーで掲載しています。)

中庭のあじさいも一輪、二輪と咲き始め、季節の移り変わりを感じます。もう6月。1学期の折り返し地点です。春の遠足も、無事終わることができ、各学年、本格的にさまざまな学習に取り組んでいるところです。

今年は観測史上2番目に早い梅雨入りだそうです。コロナ感染防止対策に加え、大雨への警戒、さらには熱中症対策と気の抜けない日々が続きますが、子どもたちには「自分の命や健康は自分で守る」という視点からも、自ら考え判断し行動できる力を育てたいと考えます。今後、暑い日も続きますので、マスクの着脱や水分補給についても主体的な判断と行動ができるよう取り組んでまいりますので、その日によっては、水筒のお茶を少し多めに持たせていただくなど、ご協力のほどよろしくお願いたします。



啐啄

「そつたく」と読みます。禅にまつわる「啐啄同時」(そつたくどうじ)という言葉があります。「啐」はヒナが卵の中から殻を吸うこと、「啄」は親鳥が卵の外側から殻をつつくことを意味しています。「啐啄同時」とは、卵の中で今まさに生まれ出ようとするヒナが内側から殻を吸い、ほぼ同じタイミングで親鳥が外からも殻をつつくことによって、殻が割れてヒナが孵化する様を表している言葉です。ヒナが殻を吸おうとする機を見誤り、親鳥がつつくのが早すぎたり、そのことに気づかなかったりするとヒナはうまく産まれることはできません。

子育ても教育もまったく同じことが言えるのではないのでしょうか。一方的に考えを押しつけるのではなく、あくまでも子どもたちの力を引き出していくというスタンスで支えていくことが大切です。子どもたちが求めているものを的確にキャッチし、必要な支援を必要な時期に適切に行うことで子どもたちは大きく成長していきます。その支援は少なすぎても多すぎても、早すぎても遅すぎても子どもたちの力にはなりません。もちろん根底には子どもたちの心に寄り添った深い愛情が不可欠です。「啐啄同時」が語る子育て、教育の在り方に学びたいものです。



楽しかった春の遠足

写真は加工して掲載
しています



【低学年 宇陀アニマルパーク】やはり子どもたちにとって、遠足などの楽しみな行事は必要です。昨年は一斉の臨時休校ということもあり、春の遠足は中止でした。今年は何とか春の遠足を実施することができ、子どもたちは本当に満足げな表情でした。日頃、学校では経験できないようなさまざまなことを学ぶことができました。「こんなに長い距離を歩いたことがない」体験であったり、「行き先は、近場だけど青空の下、友だちと思いっきり身体を動かして遊ぶ」ことであったり、「残念ながら雨だったけど、たくさんの動物とふれあい、動物と人との命のつながりを学ぶ」ことであったり、どの学年の子どもたちも生き生きと活動することができました。



【中学年 檀原運動公園】

6月下旬には、5年生が国立曾爾青少自然の家での野外活動に出かけます。ここでは、大自然の中で「自律・連帯・協力・友情・責任」等の価値をからだ全体で感じ、考えを深めていきます。いいお天気でありますようにと願っていますが、私たちは自然の力にはかえません。大自然に身を委ねながら、その時折の生き方や楽しみ方を体現してくれることを期待しています。



【6年生 明日香方面】



【警報発令時等の対応について】
新沢小学校ホームページ「お知らせ」の
タブをご参照ください。
(警報発令時の対応・下校・警報解除時の部団集合時刻等掲載)



新沢小学校ホームページ

校長室の窓を適時更新中です。よろしければご覧下さい。